

第76回市民ふれあいトーク 【働く人と考える このまちの未来】

日時 平成30年2月2日 18:30~20:00

場所 芸文館 アイシアター

要約版

《市長》

皆さん、こんばんは。今日は夕方のそれぞれお時間の都合がある中でこの市民ふれあいトークにご参加をいただきまして、心から感謝を申し上げます。今回、第76回ということで、大体毎月1回ぐらい、議会がない月に開催をしまして、地区の公民館を回ってふれあいトークをしましたり、また、例えば子育て関係の団体の皆さんとのふれあいトークだったりとか、それから文化関係の団体の皆さんとのトークだったりという形で開催をしたりということをしていただいております。今回は「働く人と考えるこのまちの未来」というテーマということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。最初15分ぐらい、私の方から最近の倉敷市の状況を説明させていただいて、そして、皆さんが日頃から思っていることとか、質問、これはどうなっているんですかということ、若しくはもうちょっとこういうふうにしたら、倉敷市のまちづくりがよくなっていくということについて、意見をいただいて、それを市役所の中でいろいろな政策を作るときに反映をしていったり、もちろん全部が全部反映できるわけではないと思うんですけど、市民の皆さんの声でこういう声が多いとか、そういうことを参考にしながら、市政の方向を考えていくという感じで、市政の大変大切な参考にさせていただいているというのが、この市民ふれあいトークでございます。

今日は、ここ芸文館におきましての開催ということで、ちょうど時期の船穂のスイートピーを飾っておられますけれども、1月27日が「いいふなおの日」ということで、倉敷駅で船穂のスイートピーの花がずらっと並んでいるのを見たなっていう人、どのぐらいいらっしゃるでしょうか？（挙手）ありがとうございます。船穂のスイートピーも50種類ぐらいあるんですけど、倉敷駅のところに1月26日、27日、28日の3日ぐらいにたくさん飾ってくれまして、船穂のスイートピーは日本の中でも2番目ぐらいに生産量が多いので、そのPRなどをさせていただいております。

それからふるさと倉敷というので、平成29年、去年の2月1日なんですけれども、倉敷市、児島市、玉島市が昭和42年の2月1日に3市合併をしましてからちょうど50年ということで、倉敷市内の63の小学校とそれから支援学校の子どもさんたちが、自分の地区の自慢したいもの、自分の地区としてはこれがすごくみんな大事に思っているというものを、これは（会場に掲示した『1枚の絵』のコピーを差して）ちょっと小さい版なんですけれども、1メートル四方ぐらいの布に絵を描いてもらいまして、今、山陽新聞の方で特集しているのを見られる方もいらっしゃると思うんですけど、例えば船穂だったらスイートピーだったり金時人参だったり、倉敷だったら美観地区だったりとか、児島だったら瀬戸大橋だったりとかというのを、子どもたちが描いてくれているというのがこちらでございます。

今年度は3市合併50年ということで、非常に大きな節目の年を迎えております。昭和42年の50年前のときには3市合わせて人口が31万人だったんですけど、そこから50年経ちまして、その後、庄と茶屋と合併をして、それから平成になりまして船穂と真備と合併をしまして、今、人口が48万4千人ぐらいということで、最初よりは1.5倍

ぐらいの人口になっています。

その間、水島コンビナートをはじめとしまして、多くの産業の立地が進みまして、今や倉敷市は全国で、製造品出荷額、皆さんが作ってらっしゃるいろいろな機械工業だったり、出荷をしているものの製造品出荷額っていうのが工業統計であるんですけど、これで大体毎年5本の指に市として入っています。その額は年間4兆円ぐらいでございまして、全国の中で上位に来るのが豊田市さん、車とかもありますので、豊田市さんが一番のことが多いんですけど10兆円を超えています。それから後は、2番から5番ぐらいは大体だんご状態です、川崎市さんとか、横浜市さんとか、それから市原さんとか、それから倉敷市とか、関東だったら京浜コンビナートあたり、それから名古屋、豊田の中京地区、それからこの倉敷地区ということで、日本の中でも、どこの小学生でも水島コンビナートというのは習うというぐらい、非常に大きな位置を占めているところであります。

車の関係では、さっきトヨタさんのことも出ましたけれど、三菱自動車の大変大きな工場があります。また、三菱さんだけでなく、マツダさんをはじめとしまして関連の企業が集積するところであり、そしてJFEさんの西日本も大変大きな、世界でも有数の製鉄所であり、また、JXTGさんの日本の中でも一番大きな精油の関係ということでして、本当にいろいろな面で倉敷市の水島をはじめとする地域というのは日本の中でも大変大切な、そして多くのところが関係の取引をしている地域となっていると思っております。

私が他の市長さん、それから初めて会う方とあいさつをするとき、倉敷市とはどんなまちですかというふうに言われたときに、困るのが一言で言うのがなかなか難しいということです。文化的に一番有名なのが、このすぐ近くにあります伝統的建造物群保存地区の美観地区です、産業的に最近全国から注目されているものとしては児島のジーンズ産業をはじめとする繊維産業です。繊維製品の製造品出荷額っていうのがあるんですけど、これも実は倉敷市は日本で一番多いわけです。額が1,200億円を超えていまして、一番多いまちとして全国的にも有名になっています。

それから瀬戸大橋も昭和63年の4月10日に橋が架かってから30周年ということで、県や市と一緒に大きなイベントも検討しておりますけれど、交通の結節点として橋も架かってますし、それから市内の各地区にインターチェンジもあるということで、この中四国の中でも非常に立地環境がいいところだと思っております。それを生かしましてまちづくりを頑張っていくというのがこの倉敷市の現状でございます。

最近の社会的なトピックスとして、一つには待機児童対策のこと、それから働き方改革っていうのがあるんじゃないかと思えます。それから今、人口減少社会というふうに言われてまして、新聞で見られた方もいらっしゃると思えますけれど、この度の昨年末の人口統計で倉敷市が、人口が初めて減りまして、前は48万4千人ちょっとだったんですが、今、48万3千8百、9百ぐらいかな、去年よりも全体として2百人ぐらい減りまして、いよいよ倉敷市にも人口減少の波が来たのかなと思っております、原因とかを分析できてないんですけど、岡山県内でも今、大きなところでもなかなか人口がどんどん増えるっていうのはなくなってきているかなという状況になっております。

さて、今、倉敷市が力を入れていることについて、一つには私の大きな政策でもあるんですけど子育て支援に非常に頑張っております。待機児童がゼロにはまだなってないんですけど、保育園、また認定こども園の創設をしましたり、それから学校教育の方でも、ここ3年ほどかけまして、中3から順番に中学校にエアコンをつけたというのが最近のこ

とでございます。それから平成27年度までに市内の学校の耐震化を終えまして、全体で百何十億円ぐらいかかったんですけど、子どもたちの安全と、それから地域の避難所になりますので、必ず早くしないといけないということでした。

それから全国的に人口減少、健康長寿、高齢社会ということがあると思います。倉敷市でも、健康長寿のまちづくりに向けて、今一生懸命に取り組んでいます。倉敷市の人口は48万人ぐらいと申し上げましたけれど、全国的にもそうなんです、65歳以上の方という枠組みで見ますと大体4分の1、12万人ぐらいが年長の皆さんの人口になります。当然、この人口というのはこれから団塊の世代の皆さんがだんだん年長になっていかれますので、今、増えてきているんです。倉敷市でも当然、年長の人口の割合がだんだん増えて、それから若年人口の割合がどうしても割合としてはちょっと減るので、皆さんが元気で健康に頑張っていただかないと、ということで、スポーツとかの健康施策に力を入れております。これまでに水島中央公園一帯のリニューアルをしまして、プールとかを新しくしたり、それから公園のところには前は噴水があったんですけど、それを芝生の大きな広場にしたりということで皆さんがちょっと活動や散歩していただきやすいようにするというを行いました。これから大きく取り組もうと思っているのが、福田公園一帯のリニューアルです。それから今、初めてなんですけれど倉敷市公認のグラウンドゴルフ場をつくるというのに取り組んでいます。これは、4面あって結構大きいものなんですけれど、山陽ハイツの下りた近くのところに福原緑地っていうのがあるんですけど、そこに来年中にはできる予定でして、そういったことに取り組んだり、健康長寿のまちづくりっていうのを頑張っています。

それから安心と活力あるまちということで、さっき申し上げました耐震化のことであるとか、それから活力ということで企業誘致、それから企業の皆さんが頑張っていただけるまちづくりということに一生懸命取り組みをしております。

今日ご関係の方もいらっしゃるんじゃないかと思うんですけど、ここ最近で非常に心配をしましたが、一昨年、三菱さんの方が、水島工場は全く悪くないんですけど、燃費のことがあって、操業が2か月ちょっとほど止まれたんですけど、それが回復してきて車の方も去年の末からRV Rっていう主力の車種を岡崎からこちら（水島）に持ってきて生産をしてもらえることになったんです。皆さんが本当に一生懸命働いてくださってますので、いろんなものがこちらに来るように、例えば2年半前のときも国とこちらの状況の捉え方っていうのが結構違ってたもんです、とにかく我々地元としては早く生産を再開してもらわないといけない、そのときにランサーの輸出用の車の生産がそこから1年ぐらいしてから終了するということが決まっていたので、その次の新しい乗用車を水島に持ってきてもらいたい、ということなどをずっと、さっきの燃費のことは国にお願いしたり、それから車の新しいことは三菱さんをお願いをしたりということで、水島の方に新しい車も持って来ていただくことができ、もちろん、各産業もそうなんです、特に車の企業におかれましては多くの関連会社もいらっしゃる、倉敷市の一つの大きな基幹産業だと思っておりますので、頑張っていただけるような取り組みをしています。

また、社会環境の整備として、去年の3月に水島と玉島を結ぶ「倉敷みなと大橋」が開通をしました。あの橋は国の橋なんですけれど、倉敷市、岡山県から平成20年頃からこの水島の競争力を高めるために、特に水島と玉島を直結で結ぶ橋が要るということでずっとお願いをしてきまして、それで去年造っていただきまして、非常にコンビナートさんの

競争力も高まってきていると聞いております。ちなみにあの橋を既に渡ったことがある方、どれぐらいいらっしゃいますでしょうか？（挙手）ありがとうございました。6割ぐらいですね。ちなみに通勤で使われている方はどれぐらいいらっしゃいますでしょうか？（挙手）通勤が早くなったなあと思う方はどうでしょうか？（挙手）ありがとうございます。あの橋は岡山県内で一番長い橋でして、2,564メートルで、西日本で最大の港湾道路ということになってます。国もこの水島のことを重要な港だと思ってくれて造ってくれたんですが、計算上では5分ぐらいの時間の短縮だということで国は効果をはじいてたんですが、実際に通勤で通られた方は結構早くなっていると言ってくださっています。それに伴って水玉ブリッジの方も、それから霞橋とかも渋滞が減っているということで市内全体の流れもよくなって非常によかったと思っています。

今から言う橋は倉敷市が架けたんですが、倉敷が真備・船穂と合併したときに「倉敷大橋」というイオンの前のところから水菱さんの上手の方に架かっている橋なんですが、それを2年ほど前に架けまして、真備・船穂への道の方もすごく良くなったかなと思っているんですが、そちらを渡ったという方はどのぐらいいらっしゃいますか？（挙手）結構皆さん渡っていらっしゃるようですね。特に船穂橋が混んでいたということで、そういうことをしながら市域の中での流通をよくするというをしているところです。

それから玉島のハーバーアイランドにいろいろな企業の誘致を県と一緒にしているんですけど、玉島のハーバーアイランドには西日本で最大級の食料・飼料の穀物関係の企業が来てくださっておりまして、そこに多くの方が他の地域からも移転をしてくれて、港、地域の競争力も一つ上がっているかなというふうに思っております。

それから、このすぐ近くの地域のこと、また玉島・児島のことですけど、伝統的建造物群保存地区であるこの倉敷の美観地区、それから玉島・児島にもあります町並み保存地区といいます昔からの地域を、今、海外からそれから県外からも多く観光客の方が来ていただいておりますので、そういうところを発信するっていうのを今一生懸命やっております、（パンフレットを示して）ここに日本遺産になったというのがあると思うんですけど、昨年、文化庁からこの町並み保存地区や伝統的建造物群をはじめとする倉敷市のこれまでの繊維産業をはじめとするものづくりのまちづくりというのが、今日お手元の方にパンフレットを入れてると思いますけれど、こういうことを文化庁から認定を受けて、これをオリンピックに向けて海外から来るお客様、それから国内のお客様に発信をしたりということは今頑張っているところです。

いろいろな産業、伝統文化、スポーツなど各方面に頑張っているところですけど、是非、今日皆様から自分に関心を持っているところとか、こういうところをよくした方が倉敷のまちがよくなるんじゃないかとか、これはどうなっているんだということなどがありましたら、教えていただければありがたいと思いますのでよろしく願いいたします。

《参加者 A さん》

大阪ソーダで働いておりますAと言います。水島コンビナートで働いているんですけど、先ほど水島コンビナートについていろいろお話いただいて、その中で、渋滞についてもお話があったかと思うんですが、水島コンビナートでは2万5千人くらいの方が普段働いていて、その人たちのほとんどが車で通勤している人ということもあって、渋滞というのが避けられないことかなと思うんですが、特に工場ですので修理の時には2倍3倍という方

が車で来るので、渋滞がものすごく多いんですね。渋滞が多いと運転している人もイライラするのか、無茶な運転をされる方もいて、結構事故も多いかなと。昨年、私の会社でも事故が多くて、特に車が多くなる時期、3月とか4月とか事故が多くて結構問題になっているんですけど。橋を架けるといってもそうだと思うんですが、電車やバス、例えば児島行、水島行、その間を通すとか、そういうラインの拡充というのはいかないのかなと思いました。

それからもう一つ、働く人についてなんですが、人口が減少するというのは避けられないことだとは思いますが、倉敷市には水島コンビナートがありますので、その雇用を確保するためにも倉敷で学んでいる小中学生がモノづくりに興味を持って、倉敷で働きたいなと思うようになるような教育とか文化に対する仕掛けみたいなのがないのかなと。それをお聞かせください。

《市長》

いずれも大変重要なことを聞いていただきましてありがとうございます。公共交通なんですけれど、例えば今、倉敷駅から縦の路線、それぞれ児島に行く路線、水島に行く路線、玉島に行く路線ということであるんですが、横の路線が非常に弱いし、なかなかないというのも一つの現状だと思っています。元はもっと路線もあったんですけど、バスの事業者の皆さんも、乗る人がどんどん少なくなってきて、もちろん市の方からもかなり補助金を出してバス路線を維持してもらっているんですが、いよいよ乗る人が少なくなると廃止せざるを得ないということで、今、非常に便数が少なくなってきているというのが現状です。

また電車という面では、水島臨海鉄道があります。一応私、充て職で社長なんですけど。水島臨海鉄道は、JR貨物さんと倉敷市とそれからコンビナート企業さんとそれから県も出資してつくっている、もともとの公共交通プラス貨物輸送の線なんですけど、もちろんこちらもなかなか採算が取れてない状況ですけど、その中でも、市からも補助金を出して、通勤通学で乗る方がいらっしゃるの、何とか維持しているという状況になっています。これから年長社会になってくると、運転をしにくい方も出てくるというところもあると思いますので、今倉敷市が公共交通の中で一つ考えているのは、バスの縦の路線と、後は横の路線が少しあるんですけど、それも接続をもっとよくして、若しくは必要なところは補助金をもうちょっと増やして、その路線が縦だけでなく横にも接続しやすくなってもらうようにするっていうのを検討しているところです。

それからこれは通勤の皆さんには関係ないかもしれないんですが、これから年長社会になる時に、例えば病院とか行くのになかなかバスが無いとか、それから自分の子どもに連れて行ってもらうのにも時間帯が違って難しいという方もいらっしゃる、そのような地区ではコミュニティタクシーというのを、だんだん採用する地区も出てきています。どういう制度かと言いますと、例えば大きな一つの団地、若しくは地区の町内会があります。その地区の皆さんでコミュニティタクシーの運営のための委員会を作ってください、例えば週に何便とかを、大きなバスじゃなく、ワゴンタクシーのような感じの車両をお願いして、その路線を、用事がある時には、例えば1日5便あります、そのうち電話がかかって来なかったらその2番目の便はないですとかというのをされて、一応そういう足がありますということで、市と地域の運営委員会とで協力をして、赤字の分の90%は市が補助

をします。10%はその地域の皆さんの町内会とかそういうところから出してください、という仕組みをやっています、今市内で8路線コミュニティタクシーがあるんですが、あと5つくらいの地区で検討されてまして、今後、年長社会に伴ってコミュニティタクシーの利用というのも増えていくと思っております。もっとバスの路線が増えるようになってくればいいんですけど、こういうものなども組み合わせ、もっと接続をよくしたりということを検討しているのが一つです。

それから雇用の確保のお話です。今日いらっしゃっている皆さんの会社とかでも人材不足だったり、新しく入社される方が入ってきにくいという所が多いのではないかという状況になりつつあるんじゃないかと思うんですけど、求人倍率は、一番直近の12月の分は2倍くらいになっていて、非常にいいと。ということはつまり働いてもらいたいと思っている会社の人が多くて、働きたいという人の方がその半分しかいないということなんで、どこも人材が足りないというふうにだんだんできてきているんじゃないかと思います。その時に今、Aさんが言われた通り、地域の子どもたち、もちろん倉敷市だけじゃなくてもいいんですが、倉敷の企業で働いてみたいという人を増やしていくというのは、我々にとってもコンビナートさんの各社にとっても、それから市内の中小企業さんにとっても、今後の死活問題じゃないかと思えます。

で、そういう教育をやったらどうかということなんです、今、市内の小学校や中学校で一番よくやっているのは、社会見学で、コンビナートの工場の方へ行って見学をしてというのが多いと思うんですが、今これを市の教育委員会も企業の皆さんとも相談しまして、少し変えていくような方向に今検討しているところです。もちろん見学はしてもらおうと思っているんですが、まず去年やってみたのが、高校の先生に対して、コンビナートの企業さんに行っていただいて、例えば部品メーカーさんと、それを組み立てているところと連続して見てもらって、そしてモノづくりの良さと働く環境とか、やりがいがあるというのを見てもらって、その高校の先生が生徒の就職の相談をするときに、是非地元の企業にまず行ってみなさい、というのを言ってもらえるようにというのをまず一つにはやり始めてます。

それから東京や大阪に大学で出る方も結構いらっしゃると思うんですが、その皆さんたちに我々としては是非戻ってきてもらいたいという思いがありまして、去年あたりから今年、平成30年度に向けて今、一生懸命枠組みを作っているんですけど、インターンシップで大学とかに行っている時にこっちに戻ってきて受け入れをしてくれる企業さんなるべく多くお願いをして、一回こっちで働いてみる、それで就職の相談とかにつなげていく、ということをやったりというのにも力を入れようと思っております。それから大学の先生たちに、とにかく就職先としてはまずは地元を考えてもらいたいということをお願いするということもしてまして、本当にどこでも人材不足というのが非常にこれから年齢構成の中で若い世代の人がどうしても少ないので、それを何とかしないといけないというふうに思っています、取り組みをしているところです。

この前いくつか取り組んだ中では、将来国際的な仕事をしたいから、地元じゃなくて東京とかで働きたいという方が割といらっしゃるというふうに聞いたんですが、例えばそういうことに対して、倉敷市内にある企業の皆さんでも世界企業がたくさんありますし、それから世界のトップシェアを占めている企業もたくさんある。そういうことを知ってもらうために、そういう国際的に活躍をしている市内の企業の方から小学校や中学校に来て

らって話をしてもらって、自分の身近な企業も国際的に活躍しているんだと、いうことを知ってもらおうようなことなど、いろんな方面から頑張っているというのが現状です。

《参加者 B さん》

Bです。私は今までいろいろな仕事をさせてもらってます。今現在は植木関係、造園関係の仕事をしています。今この倉敷市全体を見て、どうしたら明るい未来になるかということを考えましたら、今この私が持っている「すべては宇宙の采配」(本)。奇跡のリンゴを作られた木村秋則さんの本です。(市長：農業ですね。)農業、自然栽培、これを倉敷市がもっと、空き地とかそういう所で一回試してみられたらどうかということと、すべては宇宙から成り立っていることを、考えないといけないと思っています。自然を破壊してこの世の中は成り立ってないです。もう少し自然を大事にしたらいいと思います。

《市長》

ありがとうございました。今、木村式の、自然農法ですよ？木村式自然農法というのは、農薬とかを一切使わないで自然の土で、桃だったり、リンゴだったりを作るという、青森の木村さんの。(Bさん：無農薬でリンゴを作った人です)倉敷市内でもされている方がだんだん出てきているというふうに聞いています。非常に品質も良く、味も自然の味だというふうにかがっています。市が農業をしているわけではないですけど、木村式栽培の学習会に参加させてもらったりしています。それから今いいこと言っていたんですけど、倉敷市は工業とともに農業、スイートピーもそうですし、それから桃、ブドウをはじめとする第一次産業もたいへん盛んですので、そういう耕作放棄地とかに、移住定住で県外から倉敷に来てくださる方が農業について、たとえば金時人参やスイートピーを作りたいという方もたくさんいらっしゃいますので、そういう分野にも力を入れないといけないと思っています。

最近で企業誘致で非常に一つよかったのが、船穂町の柳井原に大阪からヤンマーさんの「バイオイノベーションセンター倉敷ラボ」というのが来てくださりまして、これは全国を検討した結果、倉敷が一番いいということで、水もいいし、倉敷大橋もあって物流の面もいいということで来てくださったんですが、そこでもこれからの農業の大きな技術革新みたいなものを検討されていますので、もちろん漁業もですけど力を入れたいと思っています。ありがとうございました。

《参加者 C さん》

JFEスチールのCと申します。今日は貴重なお話を聞かせていただいてありがとうございます。先ほどの1点目の質問と少し重複するところもあるんですけど、今JFEスチールとしても、やはり人口減少社会で優秀な人材の確保を行っていくためにも、今までは現場では男性のみしか働いていなかったところを、女性の方もしっかり働いてもらっているところがあって、待機児童問題等にもかかわってくることもあると思うんですけど、伊東市長も「子育てするなら倉敷で」と強く言っているところもあります。女性が働くような環境も、企業がきちっとやらないといけない部分も多々あると思うんですけど、倉敷市全体として、女性が働きやすいような環境に向けた施策などがあれば聞かせていただきたいと思っています。

《市長》

はい、今CさんからJFEさんの取り組みについてのお話をさせていただきました。ここしばらくJFEさんの方も女性の採用が増えてこられてまして、だいたい全体の1割くらいでしたでしたかね。確か最近、毎年倉敷と福山とあわせてだいたい500人規模くらいの採用をされていて、その内のだいたい、昔はほとんど現場の女性はゼロだったのが、今は50人くらい、10%近くまで毎年の採用が増えてこられているというのを伺っています。それで今年、平成30年の4月から、コンビナート企業さんの中で初めてJFEさんが保育園をつくってくださることになりまして、これは市の方からも、働く女性の方も増えているので、是非働きやすいように保育園をつくって下さいということで、何か東の方でも検討されているという話を聞いておりましたので、お願いしていましたところ、今年からして下さるとということで、大変ありがたいなと思っています。そういう、現場でも男性も女性も一緒に働けるような取り組みをしていただけるように、市もお願いをしますし、また当然国の方から補助金が出るように市も企業さんと一緒になって申請や、それから補助をする、市の方からもいろいろな補助も出ますし、という事をやっているというのが一つあります。

子育ては、当然妊娠・出産・子育てとつながっていくんですけど、妊婦さんの母体の事、その前には不妊治療もあるわけですけど、私が平成20年に市長に就任してから、子育て支援に早くから力を入れて、一番初めに取り組みまして、国よりも早くいろいろな施策を行ってきています。それから子ども医療費の無料化というのを、元は幼稚園・保育園までだったんですが、小学校、それから今やっとなんですけど中学校の入院の方まではなんとか無料に、徐々に拡大してそこまではできました。

それから昨年、子育て支援の相談ができる場所を倉敷、児島、玉島、水島、それから真備に、「妊婦・子育て相談ステーションすくすく」というのを設けておまして、そこで一元的に妊娠・出産・子育ての事を相談できたり、それから待機児童の関係で、保育園に申し込んだんだけど入れないという方がまだいらっしゃるんですけど、子育てに関するコンシェルジュを置いておまして、自分の希望する保育園が難しかったと、じゃあどうしようかという時に、例えば保育園に申し込んだんだけど、勤務時間とかを見れば、幼稚園プラス預かり保育で行っていただけたところとか、認定こども園を紹介したら行けるんじゃないかという事を紹介するなどしまして、いろいろ組み合わせまして、待機児童がまだゼロになっていないので、そういうことを相談ができる場所を作ったりとか、後は子育てに関する詳しいハンドブックを作って、一覧になっているものをお配りしたり、とにかく、保育園・幼稚園、小学校、中学校と切れ目なく子育てに力を入れるということがすごく大事だと思っています。

今倉敷市では、合計特殊出生率といまして、一人の女性の方が一生の間に何人子どもを産むかという数値なんですけど、この合計特殊出生率が今1.64人です。岡山県内では高い方に上昇してきております。そういう相談体制、それから医療の体制、それから学校に行った後の児童クラブ、学童保育に行かれる子どもさんが非常に増えていまして、こちらも保育園と同じように急ピッチで増やしていまして、そういう環境を整えることに今、全般的には力を入れているところです。どうもありがとうございました。

《参加者Dさん》

旭化成のDと言います。よろしくお願ひします。私も、子育てに絡むような話なんですけれど、やはりいいまちで働いて、結婚して子育てして人生を送ってもらいたいという思いが市長にはあると思います。で、婚活イベントを今年度実施していただいているんですけども、1年間の実績や手応え、来年度への展望などがあればお聞かせください。

《市長》

ありがとうございます。婚活イベントは、連合さんとの意見交換の中で回数を増やしたりとか、皆さん必ず土日が休みというわけではないので曜日が違う日にやってもらったとかいろいろ意見をいただきまして、前の年より回数を増やして年間8回やっています。で、来年度がまた回数を増やしまして10回やる予定になっているんですけど、その中で土日以外の曜日、平日にやる回数も増やしました。それで結婚された件数については、まだ成果は1件か2件だと聞いているんですけど、それでも申し込みは毎回すぐ埋まるという風に聞いております。1回あたりの人数が30人くらいだったかな。それで、みんなで一緒に例えばバーベキューをしたりとか、市などの施設に行ってお見学したりとかをしています。ずっと働いていて、なかなか知り合う機会が無いので、特に市がそういった機会を設けてくれたら安心して参加できるということをおっしゃっていただいたので、回数ももっと増やしていきたいと思っています。どうもありがとうございます。

《参加者Eさん》

J P労組のEです。よろしくお願ひします。一つ気になったのが、私は郵便局でバイクで配達をさせてもらっているんですけど、商店街が、まあ倉敷の方はまだまだお店はあるんですけど、特に水島の方だとシャッターが閉まっているお店が多いような気がします。何かもっと商店街を活性化できるような考えとかございますでしょうか。せっかく電車、交通機関の玄関口と言われているところなので、ちょっと寂しいなあという感じを受けましたので、そういう政策を考えていらっしゃるればお聞かせいただきたいと思っています。

《市長》

ありがとうございます。まず各地区の状況を言いますと、倉敷の方は、以前は駅から来る商店街さんも結構閉まってらっしゃるところも増えてきている状況だったんですが、最近皆さんも行かれたことあると思うんですけど林源十郎商店とか、それから、前は倉敷川のところだけ電線の地中化をしてたんですが、今はその中の通りを積極的に電線類を地中化しまして、そうすると本町通り、本町の郵便局の前の通りにもものすごくお客さんが来てくださるようになりました。市の方からの町屋・古民家の再生の補助金などがありまして、以前はなかなか持ち家の方が、閉めてても貸すのがなかなか抵抗がある方が多かったんですが、林源十郎商店さんとか成功事例を見られまして、貸しても大丈夫だなということにだんだんなって、町屋・古民家の再生をして、多くの新しいお店が来て、そこに人が来るようになって、市もアーケードを取って明るくしたりしてということで、だんだん人が増えてきているかなと思っています。

児島の方では味野商店街というのがありまして、以前はほとんどシャッター通りだったんですけど、平成20、21年だったかな、児島商工会議所の皆さんとジーンズのメー

カーの皆さん、最初は何人かから始まったんですが、自分たちが作ったオリジナルのジーンズをそこで売ろうっていうことで、ジーンズストリートを作ろうってことで始めて、今や児島のジーンズストリートは35店舗ぐらい来てます。今すごく人も増えてますし、それから店も増えてきてますし、ジーンズのいろんな種類もありますしということで、あそこもやっぱり同じように何店舗かが成功したら店主の方が閉めてたのを貸そうということになって、だんだん広がってきているというのが現状です。

水島なんですけれど、今言われたように水島はまだまだなかなか進んでないというのが現状です。水島の港まつりをする時の大きな通りがあると思うんですけど、今、市と地元の商店街の皆さんとでまず相談をしまして、あの通りの美装化を何百メートルかにわたりまして、まずは環境整備をしようということで道をきれいにしました。あとは地元の商店街振興連盟の皆さんがいろんなアイデアを今出し合って、最近大きなイベントとしては、ここ3年ぐらい「いすー1グランプリ」っていうのをやっています、事務いすのコマがついている物を各会社とかでチームになって何十周も回るといので、何百人も全国から参加されて、それは一日だけなんですけどそういうことをしたりとか、あとそれから水島のもともとの仁科百貨店さんのところの前のあたりとかに縁台を出して、「将棋のまち」っていうことで、今菅井竜也さんという、大山名人記念館で育った人が王位のタイトルに就いてまして、その菅井さんも一緒に手伝ってくれて縁台将棋をしたりということなんですけど、まだまだうまく大きく発展はしてないのも現状です。さっき水島臨海鉄道のこととも言ったんですけど、水島臨海鉄道に実は倉敷商工会議所の青年部の皆さんが注目をしてくれまして、青年部の皆さんとそれから倉敷中央高校とか倉敷芸科大の学生さんとかが駅ごとに担当を決めて、その駅の周辺のこだわりの店とかを特集した本を、千円ぐらいのB5ぐらいの本なんですけど、それを千冊ぐらい作ってくれて、徐々に注目が集まりつつあるっていうのが現状です。

もちろんそれだけでは全然足りないと思っていますし、市も商店街、またおかみさん会たちと連携をして、これからも水島の商店街の皆さんとは、もっともっていろんなことをやっていかなければいけないと思っています。私が本当に一番重要だと思うのは、JRと水島臨海鉄道をうまくつなげて、水島臨海鉄道の沿線にマンションとか家がもっと建つように、そういう方向になんとかいければいいなどは思ってるんですけど、まだまだそこまではいってないんです。臨海鉄道も公共輸送の乗客の車としての認識をしっかり持ってやってくれてはいるんですが、そのぐらいの状況です。

最後に玉島のことを言いますと、玉島には町並み保存地区がありまして、通り町、それから新町、仲買町などまさにこの日本遺産の大きな一部でもあるんですが、江戸時代は玉島の港っていうのは全国的にもすごく有名な港だったので、備中綿の輸出の港として日本全国に行く港として、それから高瀬舟の一番下手のところとして、上流との間で海と川の道を行き来するすごい大きな港として頑張っていたので、そういうことをもう1回見直して人が来てもらえるような取り組みっていうのをしていますが、まだまだ頑張らないといけないと思っています。今そんな状況です。

《参加者Fさん》

JFEプラントエンジのFといいます。やっぱり倉敷市の魅力というのはいろいろあって、農業・工業・観光と一通り揃っているのかなというのが感じられて。先日東京行って、

やっぱり倉敷がいいなと思いました。ちょっと本題からずれたんですけど、質問としては中小企業の後継者問題ということで、自分たちの会社も労働集約型というか、人がいてなんぼってところがあるんで、やっぱりお仕事、自分たちでできないとこっていうのはお願いすることがあるんですけど、そこの社長さんとかに聞いてたら、「自分ももう70歳過ぎているのにまだまだやらなくちゃいけないんだけど、次がないんだよな」というところがあって、やっぱり今そういう企業、そういう産業の方々が多分おられるんで、そういう問題っていうのを抱えられているのかなと思うんですけど、そういうところに対して、行政としてどうするかたちで集約していくのか、後継者をどういうふうに育てていくのかってところの考えがあれば教えていただければと思います。お願いします。

《市長》

ありがとうございます。本当に倉敷市内には今確か中小企業と大企業と含めて約2万社近くの会社、中小企業さんは一人でされているところを含めて、あるんですけど、その中で一番大きな課題になっているのは後継者問題だと言われています。数年前から市の方でも力を入れているんですけど、それまでは商工会議所さんが主に相談とかを受け付けられていまして、去年の4月から市の方も経営相談をできる仕組みを拡充しまして、今年度1年間で今のところ大体50件ぐらい相談が確か来ていたと思います。もちろん今後もやるんですけど、だんだん増えてきています。これからもっと多くなっていくと思いますので、市として、各中小企業さんにも多くの従業員さんもいらっしゃいますし、それから本当にいい企業さんがたくさんいらっしゃるんで、力を入れていきたいと思います。

《参加者Gさん》

四十瀬のGといいます。よろしく申し上げます。今日は僕の50年前ぐらいに働いたような人のことを聞かせてもらったんですけど、皆さん立派に未来を考えていってるなと思って。僕も外へ出ることもなしに玉島で生まれて育って、それで倉敷で60年ほど働いて今も元気でやらしていただける。2~3日前に北海道で事故がありましたようにああいうことを聞く度に、僕らも元気で働いたのは働いたんだけど、これから先はどうかあというように。市長さんも「老人には安らぎを」と言って、提案してくれとるような点で、僕も90歳が近くなりますから、安心して倉敷で生活できるようによろしく申し上げます。

《市長》

どうもありがとうございます。この倉敷市のまちをつくってくださった先輩でいらっしゃいます。安らぎはそうなんですけど、これからも元気でいていただかないといけませんので。先輩方がお元気でいていただかないと倉敷市の国民健康保険の財政も厳しくなっ

《参加者Hさん》

丸五労働組合のHと言います。今日はお話をありがとうございます。今年も瀬戸内倉敷のツーデーマーチをやられると思うんですけど、これに関して、そもそもが体力づくり健康づくりっていうことで始めたのがきっかけなんですよ（市長：そうです。）2~3年前から僕も歩き始めたんですけど、中にはゴミ拾いをされてる方もおられるのを見て、こ

れ例えば5Km とかってやっぱり体力づくりとか健康づくりにはあんまりならないと思うんですよ。で、例えばなんですけど、5Kmの人には歩く時にゴミ集めをとというのをもっとうたってみたら、倉敷のまちもきれいになるんじゃないかなと思ってなんですけど、そのへんをどう考えてるのかちょっと聞いてみたいなと思って質問しました。

《市長》

ありがとうございます。今もゴミ袋を持って歩きながら拾ってくれる方もいらっしゃいますし、コースが5Kmとそれから10, 20, 年によって30, 40とか分かれてまして、それで2日間にわたってやりますので、全国からだいたい毎回1万人ぐらい延べでは参加をしてくださるので、けっこう拾ってはくださっているんですが、もっとゴミを拾ってくださいと…、言ってみますかね。

《参加者Hさん》

5Kmとかだったら僕らは物足りないんですけど、10Kmとかだったら今度は歩くのに負担がかかるとかいう人もいて会社では5Kmって決めてるんですけど、例えばその案内の時にもっとうたってもらっておけば、やり甲斐があるみたいな感じになると思って。

《市長》

ありがとうございます。今5Kmコースは美観地区の方まで行ってある程度歩いて帰って来るっていうコースなんですけど、今実は美観地区のあたりは児島湖流域清掃大作戦とかもあって、結構皆さんが拾ってくださっているの割とゴミが少ないのは少ないんです。でも長いコースとかだとゴミがあるところもあるんですが。そういった案内もしていると思うんですが、もっと呼びかけてみますかね。せっかくですからね。

今年の1月のはじめに星野監督が亡くなられたじゃないですか。去年のツデーマーチの時に5Kmコースに参加をしてくれて、5Kmコースとその前の10Kmだったかな、20Kmの時も開会式に参加してくれて、大体そのコースがいつも2千人ぐらい参加されてすごい多いコースなんですけど、星野さんが倉敷市のスポーツ大使を受けてくださっていたので、自分が参加して皆さんを激励するって言うてくれて、全員出発の時にみんなハイタッチして出発をするのをやってくれて…、すみません。ツデーマーチのことを聞いたらちょっと悲しくなったんですけど、また3月のオープン戦の時に、マスカット球場で追悼のことを何かしらやりたいなと思ってなんですけど。すみません、ゴミ拾いから全然違う話になっちゃったんですけど、倉敷がきれいなまちだということでも多くの方が来てくださっているの、これからもいろんな機会に、協力してくれる方には袋とかを渡してお願いするとかいい考えかもしれないと思いました。ありがとうございます。

《参加者Iさん》

JFEスチールのIと言います。よろしくお願ひします。最近言われているのが岡山県の学力低下、小学生・中学生の。その辺の問題もあると思うんですけど、優秀な人を育てて倉敷や岡山県で働いてもらうという考えとかプランがあるのかということ、倉敷市の南の辺の中学校が荒れているというのを聞いてますので、その辺はいかがでしょうか。

《市長》

ありがとうございます。学力のことなんですけれど、今倉敷市の子どもたちの学力は大体県平均よりもちょっとだけ下くらいなんです。教育委員会も一生懸命頑張ってくれているんですけど、なかなかこれまで成績が上がらなかったということもあり、とにかく今基本のところから、特に小学校3年4年5年あたりのところにすごい力を入れるように、教育委員会が今頑張ってくれています。

ここ何年間かは割と低迷気味だったんですけど、教育委員会としては、何年間かやってきた成果がもうそろそろ出る頃なんでといつも言うんですけど、頑張ってくれていると思ってますし、一つ例えば平成29年度から、うまく効果が上がっていただければいいなというのがあるんですけど、全小学校の図書館に1年生の専用の図書のコーナーを設けて、新品の図書コーナーなんですけど、そこに50冊くらい、小学校1年生として読んでもらいたい本を、私自身も選びまして、とにかく小さい時に本を読む習慣を身につけると読解力が上がって、国語だけじゃなくて社会とか他の科目にも非常にいい影響が出るということを知っているんで、それを取り組み出したというのがあります。

それからさっき中学校のエアコンのことを言ったんですけど、それはもちろん受験もあるんで中3にまずつけたというのがあるんですけど、実は今年の夏から中学生の夏休みを5日ほど減らすことになってまして、それはなぜかと言いますと、教育委員会がとにかく中学校の授業の教える内容とかが日程の中でばんばんにはまっていて、例えばインフルエンザとか流行って学級閉鎖とかになったら、全く終わらないような、余裕を持って復習とかができない状況だということを聞いていました。かといって暑い夏の教室の中で勉強の日をさらに増やすのもなかなか難しい状況だったんですが、エアコンをつけて環境が整ったので、5日、8月の一番最後の週を授業に充てるということにこの平成30年度からなる予定になってまして、そういうところでも、授業日数を確保するというようになってきてます。特効薬というのがなかなかないかと思うんですが、一歩ずつ頑張るしかないかなと思ってます。

それから中学校の、以前と比べて荒れる中学校というのは少なくなったと思っていますけれど、もちろん地区によって、子どもさんの特性なり学年によっても違うというふうに聞いてまして、今、市それから県も、警察の相談員という方を中学校で相談しやすいように相談室を設けたりという仕組みなども設けていますので、そうすると効果はあると聞いていますので、よく教育委員会の方が現場の状況を見て、県の教育委員会と相談して今対応していると私は思っています。一言で答えられないんですが、ありがとうございます。

《参加者Jさん》

三菱自動車のJです。よろしくお願いたします。高齢者がこれから増えてきて、働いていく中で、やっぱり年を取ると病気をしやすくなるということで、病気になってしまっただけで、例えば癌とかになって、今、両立支援とかという言葉も耳にしますけど、整備が会社としても進んでないということが問題になって、辞めざるを得ないという方も多くおられると聞いています。これは伊東市長に言うべきことなのかどうかよく分からないんですけど、当然労使の会社と雇われる側でその辺の仕組み作りというのも当然していかないといけないと思うんですけど、そういう話の場が持てない企業もあるかと思います。そういうことがしっかり仕組みとしてできていかないと思ってしまうので、市と

して企業に対して何かそういう仕組み作りをしていくための、そういう仕組みを作らないといけなくないと認識できてない企業も多くあると思うんですけど、そこで倉敷市として何かできることがあればお聞かせ願えればと思います。

《市長》

ありがとうございます。今病気になったりしたときのお話だと思いますけれど、例えば最近、介護離職とかも社会的な課題になってると思います。法律も変わりました、介護休養、介護の休む時の制度を作りましょうということで、倉敷市内でも確かまだ70%くらいが制度を整備しているというふうには聞いているんですが、法律が施行されて、市としましても商工会議所や経済団体の方に呼びかけをしまして、会社の制度としてちゃんと取り入れてくださいという要請をしました。また、障がい者の方の雇用率というのも上がってきてますので、そういうことについても同じく情報を共有したり、申し入れをしたりということをして直近ではしているという状況にあります。

今働き方改革ということで本当に大きく状況がまた変わってきて、すぐにはなかなか難しいとは思いますが、絶対的な人手不足ということもあるので、いろんなところを変えていかないと、この社会が成り立っていかないというところがあると思いますので、そういうところを市としても後押ししていけるように会社側とも相談をしたり、それから申し入れをしたいと思っています。また連合の皆さんから毎年政策制度課題の意見交換ということでしていただいておりますので、そういうことを市の制度で取り入れたり、また会社側にその話を申し入れたりということなど引き続き行っていきたいと思っています。どうもありがとうございます。

《参加者Bさん》

一言言わせてください。これは読売新聞の時事川柳に載った句です。

「貧困を自己責任と突き放す」

これをよく考えてください。

《市長》

それは社会的な課題だと思いますので、自分のことだけじゃないと思います。ありがとうございました。

それでは時間がちょうど来てしましまして、皆さんから本当にいろんな面でお話をいただきまして、ありがとうございました。働く皆さんたちからのお話、また子育て関係とか、まちづくりについてのご意見など、いろいろいただきました。これから倉敷市がいろんな政策を考えていくときに是非参考にさせていただきたいと思っています。本当に皆さんがこの倉敷市の社会を支えてくださっておりますので、それぞれの立場でこれからも是非とも頑張ってくださいますように、また私も方も一生懸命頑張っておりますので、よろしくお願いたします。今日はどうもありがとうございました。

《終》